



「ディスカバー農山漁村の宝」 フォローアップ調査



令和3年3月

農林水産省農村振興局都市農村交流課

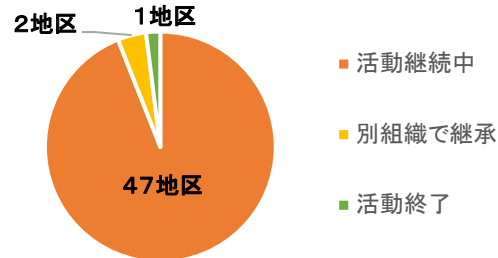
第1回及び第2回選定地区の概ね5年後の主な活動状況

「ディスカバー農山漁村の宝」として平成26年度（第1回選定）と平成27年度（第2回選定）に選定された50地区に対して、選定直後の状況と選定後概ね5年後の活動状況について調査を実施。

選定後の活動継続状況

第1回選定の23地区及び第2回選定の27地区の計50地区のうち、47地区は選定後概ね5年後も同じ組織形態で活動を継続し、2地区も地域単体の協議会等での活動へ移行など別組織へ移行して活動。1地区は震災復興としての取組であり、所期の目標を達成したことをもって活動を終了。

第1回及び第2回選定地区の活動状況(R3.3時点)



第1回選定地区



第2回選定地区



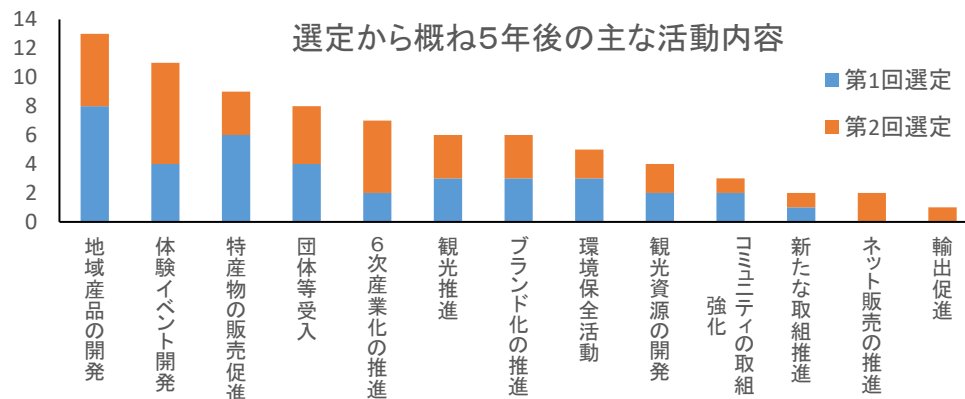
ベニズワイガニをまるごと1匹提供する「カニ給食」を継続
新漁業協同組合（第2回選定地区・グループ）



被災県の一時的な雇用創出のため、漁網を使ったミサンガを販売
（目標を達成し現在は活動を終了）
三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会（第1回選定地区）

選定から概ね5年度の活動内容

第1回選定及び第2回選定地区の選定から概ね5年後の活動内容は、①地域製品の開発や販売促進などの6次産業化の取組、②体験イベント開発や観光促進などの交流人口拡大の取組、また、③環境保全活動やコミュニティの取組強化などの地域活動が積極的に行われている。



環境保全活動の取組



地域製品開発・6次産業化の取組



交流人口拡大の取組

第1回選定(平成26年度)及び第2回選定(平成27年度)地区一覧

第1回選定地区

ブロック	都道府県	市町村	団体名
北海道	北海道	富良野市	富良野オムカレー推進協議会
	北海道	標津町	標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
東北	岩手県	盛岡市	三陸に仕事を！プロジェクト
	宮城県	仙台市	一般社団法人 東北食のカプロジェクト ★
関東	茨城県	つくば市	認定NPO法人 茨塚の自然と歴史の会
	東京都	板橋区	ハッピーロード大山商店街振興組合
	山梨県	北杜市	特定非営利活動法人 えがおつなげて
北陸	富山県	富山市	NPO法人 大長谷村づくり協議会
	石川県	金沢市	(株)金沢大地/アジア農業(株)/金沢農業
東海	愛知県	南知多市	株式会社 篠島お魚の学校
	三重県	多気町	有限会社 せいわの里
近畿	大阪府	泉南市	ハートランド株式会社
	奈良県	奈良市	植村牧場株式会社
	和歌山県	那智勝浦町	色川地域振興推進委員会
中国	島根県	邑南町	一般社団法人 邑南町観光協会 ★
	広島県	庄原市	粟田川流域農地・水・環境を守る会
	山口県	萩市	ふるさと萩食品協同組合
四国	愛媛県	伊予市	住民自治されだに
	高知県	本山町	本山町特産品ブランド化推進協議会 ★
九州・沖縄	長崎県	雲仙市	農事組合法人守山女性部加工組合
	長崎県	壱岐市	「島のめぐみ観光農園」プロジェクトチーム
	宮崎県	高原町	農事組合法人はなどう
	沖縄県	今帰仁村	農業生産法人今帰仁アグー ★

第2回選定地区

ブロック	都道府県	市町村	団体名
北海道	北海道	剣淵町	絵本の里けんぶちVIVAマルシェ ★
	北海道	北斗市	函館育ちふっくりんこ蔵部
東北	青森県	平川市	農業生産法人 株式会社グリーンファーム農家蔵
	岩手県	遠野市	遠野・住田ふるさと体験協議会
	宮城県	仙台市	一般社団法人 ReRoots
関東	栃木県	市貝町	芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会
	埼玉県	秩父市	お菓子な郷推進協議会 ★
	神奈川県	平塚市	平塚市漁業協同組合
	静岡県	西伊豆町	西伊豆しおかつお研究会
北陸	富山県	射水市	新湊漁業協同組合 ★
	石川県	能登町	春蘭の里実行委員会
	石川県	七尾市	NOTO高農園
	福井県	福井市	殿下の里づくり組合 かじかの里山殿下部会
東海	福井県	若狭町	農業生産法人 有限会社 かみなか農楽舎
	岐阜県	下呂市	馬瀬地方自然公園づくり委員会 ★
	三重県	鳥羽市	相模海女文化運営協議会
近畿	滋賀県	野洲市	せせらぎの郷
	和歌山県	有田市	株式会社 早和果樹園 ★
	和歌山県	田辺市	農業法人株式会社秋津野
中国	島根県	浜田市	美又湯気の里づくり委員会
	岡山県	久米南町	北庄中央棚田天然米生産組合
	山口県	萩市	社会福祉法人E.G.F
四国	徳島県	吉野川市	特定非営利活動法人 美郷宝さがし探検隊
	香川県	多度津町	農事組合法人 たどつオリーブ生産組合
九州・沖縄	熊本県	玉名市	小岱山薬草の会
	鹿児島県	南大隅町	社会福祉法人 白鳩会 ★
	沖縄県	名護市	やんばる畑人プロジェクト

※ ★はP.4～P.13の個別事例掲載地区

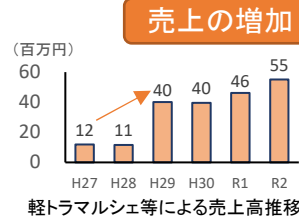
選定地区の概ね5年後の主な活動状況〔総括表〕

- 選定による知名度の向上や継続的な販売の継続等により、選定後も売上を大幅に増加させている地区が多く見られた。
- イベントの継続や新たな交流の取組等により交流拡大した地区、店舗数を拡大させた地区等、選定後も各地区の取組が進展。

絵本の里けんぶちVIVAマルシェ
(第2回選定・北海道剣淵町)

📍 P.4

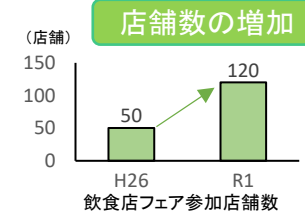
軽トラマルシェや直接取引による売上高は選定後に大きく増加し、令和元年には選定年の4倍にまで増加



一般社団法人 東北食のカプロジェクト
(第1回選定・宮城県仙台市)

📍 P.5

選定5年後現在、年平均4回の飲食店フェアを開催し、参加飲食店は選定時の50店舗から120店舗に増加



秩父お菓子な郷推進協議会
(第2回選定・埼玉県秩父市)

📍 P.6

米国カリフォルニア州にて、地元産品の販売や、秩父ナイト(レセプション)を開催し、秩父産調味料を使用した調理等を実施



米国カリフォルニア州のレセプション

輸出促進

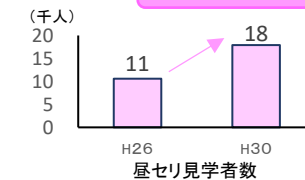
新湊漁業協同組合
(第2回選定・富山県射水市)

📍 P.7

選定後も各種イベントを継続的に開催し、昼セリ見学者数は、11千人(H26年度)から18千人(H30年度)に増加

🏆 グランプリ受賞

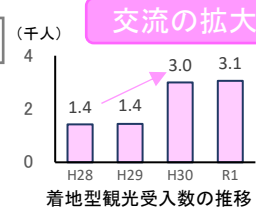
交流の拡大



一般社団法人 馬瀬地方自然公園づくり協議会
(第2回選定・岐阜県下呂市)

📍 P.8

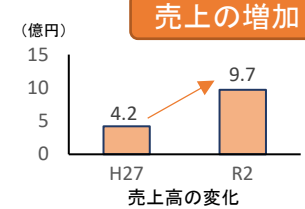
選定直後に着手した着地型観光受入数は、選定直後の1,421人(H28年度)から3,054人(R元年度)に大幅に増加



株式会社早和果樹園
(第2回選定・和歌山県有田市)

📍 P.9

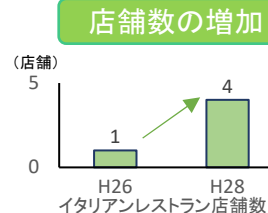
試飲・試食の取組を積極的に行い、売上高は約4億円(H23年度)から約10億円(R2年度)まで大きく増加



一般社団法人 邑南町観光協会
(第1回選定・島根県邑南町)

📍 P.10

イタリアンレストランを職員が起業して民営化し、選定後に広島市に2店舗、町内に新規1店舗を出店し計4店舗を運営



本山町特産品ブランド化推進協議会
(第1回選定・高知県本山町)

📍 P.11

交流を促進するため、棚田コンサートやそば収穫祭等のイベントを開催し、SNSフォロワーも増えて交流人口は増加



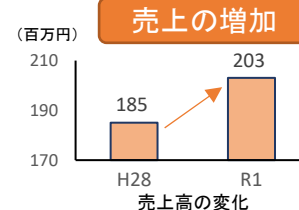
田んぼアートによる交流

交流の拡大

社会福祉法人 白鳩会
(第2回選定・鹿児島県南大隅町)

📍 P.12

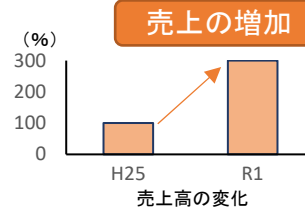
アンテナショップ等での販売により、生産組合の売上高は185百万円(H28年度)から203百万円(R元年度)に増加



農業生産法人 有限会社今帰仁アグー
(第1回選定・沖縄県今帰仁村)

📍 P.13

選定による知名度の向上により事業が進展し、売上高は選定5年後には選定前年度(H25年度)から約3倍に増加。



ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



絵本の里^{ビバ}けんぶち^{けんぶちちょう}VIVAマルシェ【北海道剣淵町】

選定年:H27年

概要

- 若手農業者が農作物を軽トラの荷台に積み込んで、各地で移動販売(マルシェ)を実施し、その情報をSNS等を通じて配信することで、顧客の獲得や消費者ニーズの把握・生産現場への反映等を推進。
- 平成27年度の「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたことによる報道の増加で知名度が向上して顧客も増え、今後は、インターネット等を活用したお届けマルシェや、企業とのコラボ商品開発等に取り組む。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 若手農業者が農作物を軽トラの荷台に積み込み、各地で移動販売(マルシェ)を実施。また、地元小・中・高校の体験学習の受け入れ等も実施。
- マルシェの情報は、ブログ等SNSを通じて定期的に配信。
- 直接消費者と接することで、栽培農作物に一層の責任感を持つとともに、消費者ニーズを直に感じることで、生産現場に反映。
- 農家レストランの食材提供やワークショップ、加工品製造など活動内容が多角化。



軽トラによる移動販売

選定直後の状況

- 選定された平成27年度以降3年間で新聞記事として54回掲載。
- 平成27～29年度の間に、計5回テレビ報道あり(平成24～26年度は報道実績なし)。
- 各種雑誌などのその他メディアにも平成27～29年度の間に計16回掲載(平成24～29年度は2回)。



選定時に掲載された新聞記事

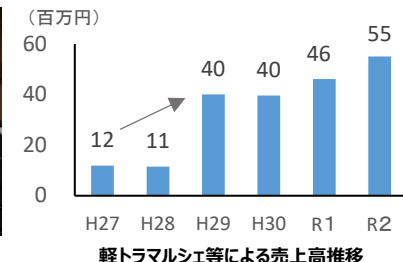
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 現在も軽トラマルシェは活動中で、メディア、新聞等多数紹介されているほか、講演会の依頼もあり、知名度が引き続き向上。同時に地域発信の材料ともなり、町の知名度も向上。
- 軽トラマルシェや直接取引による売上高は選定後に大きく増加し、令和元年には選定年の4倍にまで増加。
- 選定後、社会全体の意識も上がり新規作物への挑戦や、新しい仕組みづくりの取組を実施。



軽トラマルシェについての講演



今後の展開方向

- 今後は、インターネット等を活用したお届けマルシェを実施していく予定。
- 地元企業や道外企業と連携したコラボ商品開発・販売にも引き続き取り組む予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



一般社団法人 東北 食のカ プロジェクト 【宮城県仙台市】

せんだいし

選定年:H26年

概要

- 東日本大震災後の経済復興や人材育成のため、生産者支援と飲食店をベースとした都市と地域をつなぐプラットフォームプロジェクト。
- 生産者と飲食店がダイレクトに取引・流通を行い、販路を拡大。仙台を中心に、行政・外食・生産者が一体となった海産物等の物販やPRイベントを開催。

選定年(H26年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 産直共同購入参加店や、生産者と飲食店との直接流通の拡大により収益性が向上。
- メニュー開発を含めた、地域食材の定番化、地域ブランド化の定着。
- 継続性のあるネットワークの確立に向け、外食関連企業等を囲い込みながら月例勉強会等を実施。
- 首都圏等の消費者にも、地域の魅力を直接訴えられる機会を設けている。



漁業者と飲食店との合同イベント



居酒屋と鮮魚店との連携

選定直後の状況

- 選定後、各都道府県の飲食団体が視察に訪れた。
- 特に九州の飲食店経営者団体「ICOO会」や日本全国の飲食店が属する「居酒屋甲子園」からは複数回の視察が行われ、今後の取組等についての意見交換、情報共有等を行った。

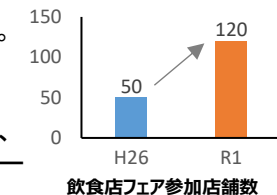


視察に訪れた団体と記念撮影

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定後に宮城県内の一次産業者・加工業者との「つながり」が強化され、地元食材のブランディング、仕組みづくりを継続中。
- 現在、年平均4回の飲食店フェアを開催。(参加飲食店は50から120店舗)
- より多くの飲食店への食材の紹介・供給、それを使って各飲食店は魅力的なメニューの提案を実施。



これまでに開催したイベントのPRポスター

今後の展開方向

今後はさらに生産者(団体)と飲食店が繋がることで、東北の食材のブランディングを図り、地域創生の一助となる活動をする。「食で街を元気にするプロジェクト」「生産者との絆づくり・産地ツアー」「食材の販路拡大! 飲食店フェア」等、仙台をはじめ、他エリアの飲食業界を巻き込んだ活動を実施、計画中。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



秩父市お菓子な郷推進協議会 【埼玉県秩父市】

選定年:H27年

概要

- 秩父の山々に自生しているカエデに着目し、国産メープルシロップ事業を開始。樹液の採取、シロップ化(秩父カエデ糖)のほか、カエデ酵母使用のパンの開発、カエデのラムネ販売など、6次産業化と林商工連携によるお菓子づくりを推進。
- 針葉樹林にカエデを植栽する など、針広混交林化や「花粉の少ない森づくり」を推進。
- 大手小売店、コンビニ、通信販売を活用した販売事業を展開。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 「花粉の少ないカエデの森づくり」として、市有林内に、カエデを植樹する事により、10年後に「紅葉と言えば、秩父！」と言われるよう植樹を実施。



カエデ樹液の採取

- カエデ事業に関わる人々に農業や林業に関わる人々と連携を行い、少しでも収入向上に繋がる事で、連携する人々がハッピーになれるよう6次産業化を実施。
- 当初は、秩父カエデ糖使用商品を地産地消を目指し販売開始、地産地消では、売上の限界に到達したことから、平成23年に販売地域を拡大して、商品の消費拡大。

選定直後の状況

- 選定後、東京農業大学、上智大学、法政大学、群馬県多野藤岡振興局、茨城県産業振興公社、埼玉県産業振興公社、熊本県人吉市団体が延べ15回訪問。



国産メープルシロップ使用製品

- 高速道路SA・ホテル・旅館・観光施設で、選定実績を活用した販売を促進。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 米国カリフォルニア州クパチーノ市(シリコンバレー)日系スーパーマルカイにて秩父産品のプロモーションを行い、和菓子(饅頭三種 中村屋製)の販売(輸出)を開始。
- 米国カリフォルニア州サラトガ市にて、秩父ナイト(レセプション)の開催、秩父産の調味料と現地食材使用しプロシェフにより調理。
- 米国サンフランシスコ国際空港JALサクララウンジ(ビジネスクラス搭乗客)にて「ちちぶまゆ」、「すのうぼうる」を提供。
- 秩父産メープルシロップ(秩父カエデ糖)が世界で初めて食品として森林認証を取得。「ちちぶまゆ」が森林認証のお菓子として販売。
- 第6回WOODデザイン賞2020 ちちぶまゆ受賞。



日系スーパーマルカイで販売



秩父ナイトの様子(サラトガ市)

今後の展開方向

- 米国発の日本便機内食での「ちちぶまゆ」提供により、多くの人に秩父を知ってもらい、交流の促進による地域づくりを目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



しんみなと
○新湊漁業協同組合 【富山県射水市】 いみずし

選定年:H27年
(グランプリ受賞)

概要

○朝・昼2回のセリ見学、市内全小学生6年生を対象とした「カニ給食」による魚食普及、高校生を対象とした「魚のさばき方教室」を実施。
○「新湊カニかに海鮮白えびまつり」に加え、ベニズワイガニの新ブランド「高志(こし)の紅(あか)ガニ」のPR、「富山湾しろえび倶楽部」を立ち上げ、白えび漁を見学する観光船の運航等の取組を新たに開始。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 朝・昼2回のセリ見学の実施。
- 地元高校生を対象とした「魚のさばき方教室」の開催。
- ベニズワイガニをまるごと1匹プレゼントする「カニ給食」の実施。
- 「新湊カニかに海鮮白えびまつり」の開催により、港で水揚げされる鮮魚のPR販売。
- マコガレイのブランド化(万葉カレイ)。



昼セリ見学



カニ給食

選定直後の状況

- 地元紙に加え、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞等が取材・記事掲載。
- 日本テレビ、TBS、フジテレビ、朝日放送、NHK等が取材・放映。
- 選定後、全国の漁協関係者による視察や県内の小学生等多数訪問。

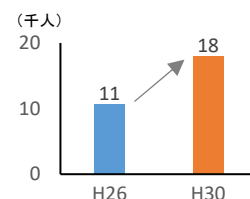


新湊カニかに海鮮白えびまつり

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 「新湊カニかに海鮮白えびまつり」、「カニ給食」、「魚のさばき方教室」、「昼セリ見学」を継続的に開催。
- 昼セリ見学者数は10,590人から17,914人へ増加(H26→H30)
- 富山湾で獲れる紅ズワイガニが県推奨とやまブランドに認定(H28年度)され、「高志(こし)の紅(あか)ガニ」と知事がネーミング。首都圏等でPRイベントを開催。
- 漁協の若手漁師が持続可能な漁業を目指し「富山湾しろえび倶楽部」を立ち上げ(R2年度)、白えび資源の保全に取り組むとともに、白えび漁を見学する観光船を運航するなど白えびをPR。



昼セリ見学者数(人)



ブランド 高志の紅ガニ



白えび漁の見学

今後の展開方向

- 水産資源と環境に配慮し適切に管理された持続可能な漁業で獲られた天然の水産物に与えられる認証「海のエコラベルMSC認証」の取得に向けて取組を開始。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



一般社団法人 ^{まぜ}馬瀬地方自然公園づくり協議会
(選定時) ^{げろし}馬瀬地方自然公園づくり委員会【岐阜県下呂市】

選定年:H27年

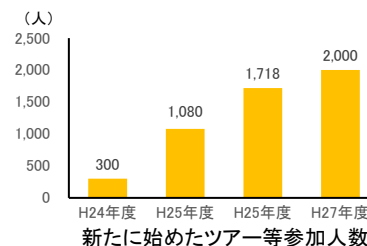
概要

- 観光と農林業の調和を重視したフランスの「地方自然公園制度」を訪仏して直接学び、参考にして活動。
- 集落の野外を博物館に見立てた「里山ミュージアム」、地域を網羅するウォーキングコースの設定、ウォーキングイベントの開催、馬瀬川の伝統漁法の観光ツアー等の取組。
- 地域の名産の鮎について、イベント開催、料理提供、加工品の開発など、地域の食としての魅力の引き出し。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成17年に馬瀬地方自然公園づくり委員会を設立。地域の自然や景観、特産品などの見直しと活用を図る活動を開始。
- 里山ミュージアムなど新たな取組の開始により、域内イベント参加者数が300人(H24年度)から約2千人(平成27年度)に増加。
- 景観など地域の魅力を積極的に発掘し活かす取組を続けた結果、住民が地域の良さに気づき、自主的な取組の機運が醸成。
- 地域に定住を希望する地域おこし協力隊員や、学生の活動参加が活発化。



選定直後の状況

- 馬瀬地域産品認定制度を創設(「馬瀬川上流鮎」、「水源米馬瀬ひかり」など)。
- 馬瀬地方自然公園づくり委員会が、観光地域づくり事業体(DMC)「馬瀬さとやま株式会社」を設立し、本格的なビジネス化を開始。
- 着地型農村体験の商品化に着手。
- 選定後、雑誌、新聞等での報道により、視察者が急増(H28、137人)。



地域ブランド化認定商品
【水源米馬瀬ひかり】

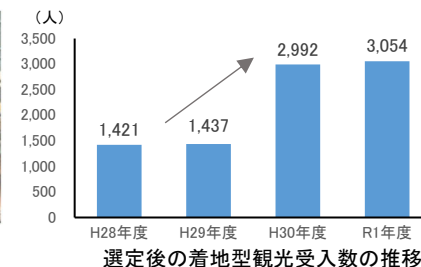
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 平成30年度に、下呂市DMO、エコツーリズム全体構想に参画。
- 令和元年度に、第3次馬瀬地域地方自然づくり5ヵ年計画を作成し定住人口の確保の取組を開始。一般社団法人化。
- 着地型観光の受入数は、選定直後より大幅に増加し令和元年度は3千人を超過。
- 令和2年度に、コロナ禍を契機に地域情報発信の強化。HPのリニューアル、地域情報動画を作成。



着地型体験:郷土食である
五平餅作り体験



今後の展開方向

- 今後は、景観保全活動、地域の食の魅力向上、着地型観光のあり方を改善し、持続可能な地域づくりに取り組む。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



そうわ ありだし
株式会社早和果樹園 【和歌山県有田市】

選定年:H27年

概要

- 昭和54年に7戸のみかん農家で創業。
- 当初は、生産のみであったが、高品質の有田みかん生産に取り組むほか、みかんジュース、ジャム、ポン酢など有田みかんに特化した商品開発を推進。生産にはICT農業システムを導入し栽培技術の「見える化」を進め、農作業の効率化を推進。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 温州みかんの安値が続くなか、「量より品質で勝負」と、昭和54年に同世代のみかん農家7戸で「早和共撰」を設立。
- 平成12年、有田みかんに付加価値を加える6次化に取り組むこととなった。
- 農作業や加工などシニア女性の活躍の場である子会社を設立。



早和果樹園の設立



「早和なでしこ」メンバー

選定直後の状況

- テレビ東京「モーニングチャージ」で紹介
- PRESIDENT Onlineに情報が掲載及びYahoo! TOPに紹介
- 第38回食品産業優良企業等表彰で農林水産大臣賞を受賞

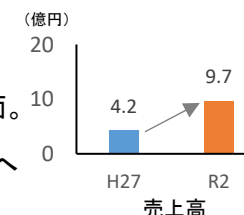


テレビ番組での紹介

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定後の平成30年にジュースの試飲や各商品の試食ができる直営店を開店。
- 社員総出で様々な店舗で試飲販売を行い、年間60万人を大きく超える消費者と直接対面。
- 売上げは4.2億円(H23)から、9.7億円(R2)へと大幅に増加。
- 常時60人を雇用するとともに、臨時で80人を雇用するなど、中山間地域における雇用を創出。



直営店外観



直営店内部

今後の展開方向

- 日本一のみかん産地で、ステークホルダー全体の充実と発展を目指し、みかん農業のリーディング・カンパニーとして、更にみかんの可能性を追求していく。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



おおなんちょう
一般社団法人 邑南町観光協会 【島根県邑南町】

選定年:H26年

概要

- 地元産品を使用したイタリアンレストランの展開や人材育成のための「食の学校」を開設。
- 「A級グルメ」の発信拠点としてのレストランやそばの学校を開業し、A級グルメのまちづくりを展開。
- 今後も、人材育成事業の継続や近隣市町と協力した新たな特産品の開発に取り組む。

選定年(H26年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成19年邑南町観光協会設立。平成23年法人化。
- 平成23年から地域おこし協力隊「耕すシェフ」制度を開始。
- 地元産品を使ったイタリアンレストランを運営。
- 地域の食文化継承や人材育成のため「食の学校」開設。



地産地消レストラン「素材香房ajikura」



食の学校

選定直後の状況

- 平成29年までに「A級グルメ」の取材で全国放送7回。
- 町内産品を使った飲食店舗経営や調理から農作物の栽培までトータルで受入を行う「耕すシェフ」を平成27年に5人、翌年は7人受入。



「耕すシェフ」農業研修

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(6年後)

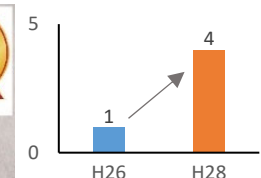
- イタリアンレストランは、職員が起業し民営化。広島市に2店舗、町内に1店舗出店し計4店舗を運営。
- 平成29年人材育成と食と農に関する事業を分社化し、一般社団法人食と農の人材育成センター設立。
- 「A級グルメ」の発信拠点として新法人が平成30年「里山のからだにやさしい邑南食材レストラン香夢里」を開業。
- 「邑南そば街道」の取組により、平成30年に邑南そばの学校を開校し、そばの人材育成を開始。
- 地元企業と共同で開発した「日と高原ミルクジャム」がフードアクションニッポンアワード2017を受賞。



里山のからだにやさしい
邑南食材レストラン香夢里



日と高原ミルクジャム



イタリアンレストラン
店舗数

今後の展開方向

- 新法人による人材育成事業を継続し、若者移住を促進。
- 近隣市町と協力し新たな特産品を開発していく。
- 令和2年策定の新たな観光ビジョンによる、関係人口の取組を推進。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



もとやまちょう

本山町特産品ブランド化推進協議会 【高知県本山町】

もとやまちょう

選定年:H26年

概要

- 地域の活性化のため、地元棚田米をブランド米「土佐天空の郷」として販売。販売初年度(H21)より人気商品となり、毎年完売。
- 米加工品の商品開発やイベント等の開催に取り組む。
- 今後も、生産者の収入に繋がる取組を展開し、担い手確保に繋げていく。

選定年(H26年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 棚田米の生産を維持していくため、担い手の確保に取り組んでいく。棚田米に室戸海洋深層水のにがりを散布することにより旨みを高め、「土佐天空の郷」としてブランド化し、販売。
- 棚田米の加工品として、米焼酎を商品開発し玄米の香ばしい香りが特徴の焼酎として販売。
- 田んぼアートやかかしアート等のイベントを通じて都市との交流も盛んに行っている。



田んぼアートの様子

選定直後の状況

- H26高知県内初の「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区として地元新聞に大きく取り上げられた。また、関係者が集まり受賞祝賀会が行われた。
- TV、情報誌等多数のメディアにも取り上げられる。(毎年、多くのメディアの取材を受けている。)
- 視察の受け入れも多数。(毎年、30~40件の視察を受け入れている。)



受賞祝賀会の様子

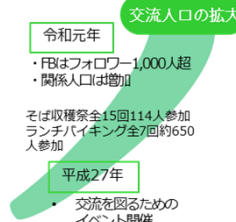
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(6年後)

- 米の加工品として、焼酎「土佐天空の郷」に加え、グラノーラ、ポン粉(ポン菓子を粉にしたもの)等を開発し、商品化して販売。
- ブランド米「土佐天空の郷」と地元の具材を使用したおむすびを商品化し、直売所等で販売。おむすび専門店「こめのみみ」を東京都内に開店予定。また、冷凍おむすびを商品開発中。
- 棚田コンサート等のイベントを開催し、交流人口は増加。
- 棚田米の品質の均一化や生産の省力化のため、水田センサーの設置など、スマート農業への取組を開始。



おむすび所「こめのみみ」



交流人口の拡大状況



水田センサー

今後の展開方向

- 米を作れば売れるという流れを確立することにより、より生産者の収入確保に繋がる取組を展開していく。
- 棚田米の生産を維持していくため、担い手の確保に取り組んでいく。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



しらはとかい おおすみちょう
社会福祉法人白鳩会 【鹿児島県南大隅町】

選定年:H27年

概要

- 知的障害者が安心して働き暮らせる場をつくるため農事組合法人を設立。
- 循環型農法を実践するとともに、茶製造、ハム・ソーセージなどの食品加工品を統一ブランド名「花の木農場」として販売。

選定年(H27年)前後の状況

選定時までの活動状況

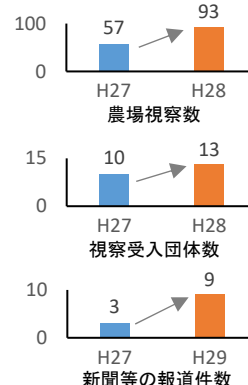
- 知的障害者の自立を支援するため社会福祉法人を昭和47年に設立。
- 知的障害者が安心して働き暮らせる場として農事組合法人根占生産組合を昭和53年に設立。
- 鹿児島市内にアンテナショップを開設し、ジェラートなどを製造・販売。



花の木農場Ⅱでのトマト栽培

選定直後の状況

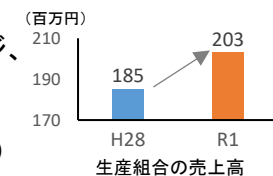
- 農場視察として57人(H27年度)から93人(H28年度)に増加。
- 視察受入として10団体(H27年度)から13団体(H28年度)に増加。
- 新聞等の報道件数が3回(H27年度)から9回(H29年度)に増加。



現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 健常者と障害者が交流できる花の木新茶まつりなどのイベントを継続して開催。
- 茶製造、防腐剤不使用のハム、ソーセージ、餃子やジェラートなどをアンテナショップやレストランなどで販売。
生産組合の売上高は185百万円(H28年度)から203百万円(R元年度)に増加
- 農業分野における障害者就労、農福連携に関する視察の受入。(H27年度:57人、10団体→R元年度:571人、47団体)



チャリティーコンサート&新茶まつり



農場内レストラン「花の木」

今後の展開方向

- 都市住民との農業体験交流を通して「農福観連携」による地域おこしを目指す。
- 高校などと連携し加工食品の製品開発を進める。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



なきじん
農業生産法人 有限会社今帰仁アグー

なきじんそん
【沖縄県今帰仁村】

選定年:H26年

概要

- 伝統行事や食文化等、地域の多様性を保全するため、平成10年に11名で活動を開始し、在来種の系統維持、地域産業の振興を目的として、平成15年、農業生産法人を設立。
- 選定による知名度の向上で、取引先等の関係者と連携した情報発信を行うことができ、また、選定5年後の売上高は、選定前の約3倍にまで増加。
- 今後も、在来家畜資源の系統維持・多様性の保全やその産業化に取り組む。

選定年(H26年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 伝統ある琉球豚の飼育と加工食品の販売。
- 視察の受入や講演会を通じた琉球在来種の普及活動を実施。
- 平成25年、琉球豚の生産拡大及び加工、販売促進について、6次産業化認定を取得。



琉球豚



琉球豚の加工品

選定直後の状況

- テレビ(NHK総合)による取組紹介
- 講演依頼15回(H27年)
- 選定後に約100名の視察受入あり
- 売上高が約1.8倍(H25→H26年)に増加



講演会での取組紹介

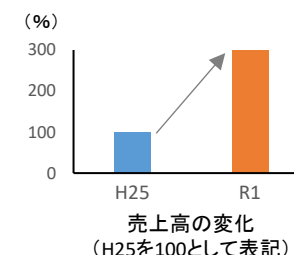
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(6年後)

- 選定により知名度が向上し、取引先や関係者による活動内容の発信により事業も進展。
- 選定により得た人脈により、有事(コロナ、豚熱)の際にも協力して対応。
- コロナ禍で出荷停止となった今帰仁アグーの種の保存のため立ち上げたクラウドファンディングでは目標の120%を超える額の支援を達成。
- 講演会等多くの依頼があり、テレビ・新聞での取材も年間15回程度。
- 売上高は選定5年後には選定前年度(H25年度)から約3倍に増加。



地元の中高生によるイベントでの販売・情報発信



今後の展開方向

- 今後も、琉球豚、琉球古地鶏(ファートゥーヤー)などの在来種等の系統維持・多様性の保全に取り組む。
- 今帰仁村ECサイトを立ち上げ今帰仁村の特産品として販売を拡大していく予定。